



教育のユニバーサルデザインについて考えましょう！



中学校のA先生は、生徒たちと話し合って決めた学級目標（着席や授業態度等に関する取組）が達成できたら、文字に金色の色紙を貼っていきます。子供たちの成長ぶりが可視化され、達成感を味わう生徒もいるようです。

どの教室にも掲げられている学級目標ですが、年度初めに子供たちと一緒に作って掲示しどのように活用しておられるのでしょうか？



また、A先生は、生徒たちが前向きな気持ちで一日の学校生活をスタートできるように、生徒たちへの10行メッセージを毎朝、黒板に書いています。締めくくりの文は「今日も一日顔晴（がんば）ろう」です。きっと、学級の生徒一人一人の笑顔进行思い浮かべながら書いておられるのでしょう。

A先生に尋ねると、「生徒同士の人間関係づくりのためにも、まずは、担任と生徒の信頼関係づくりを大切にしたい」と話されます。そして、他にもいろいろと学びの環境を整え、生徒たちとコミュニケーションを深めていく中で、「生徒たちが何を考え、どう思っているかという視点での関わりが大切である」と気付かれたそうです。

A先生のような居心地のいい学級づくりを目指す取組は、県内の小中学校で日々行われています。子供の視点に立って行われている安心で安全な教室環境づくりや、信頼関係の構築のための人的環境づくりは、学級の全ての子供たちにとっての暮らしやすさ、学びやすさにつながる「ユニバーサルな」デザインになるのです。

「教育のユニバーサルデザインというのは個別の支援のことではありません。障害のあるなしに関わらず、より多くの子どもたちにとって、わかりやすく、学びやすいように教育をデザインしていくこと、子どもたち全体の学びに主眼を置いた取り組みであることを強調したいと思います。」

<引用> 『人的環境のユニバーサルデザイン』阿部利彦ほか、東洋館出版社、2019年（p.9）